

# *CINEX Web Journal*



## 第13号

発行日 2024年6月1日

★ 落花流水と瀬をはやみ

田野倉 知士

## 落花流水と瀬をはやみ

明星大学非常勤講師 田野倉知士

春から夏の景色を表す四字熟語に落花流水という言葉がある。この語から思い浮かべる情景は、春に咲いた花が盛りを過ぎて川の水面に落ち、花が水面をたゆたう場面だろう。辞書で確認してみると、確かに第一義にはそういったことが書いてある。三省堂の『新明解四字熟語辞典』によると、落花流水について「落ちた花が水に従って流れる意で、ゆく春の景色。転じて、物事の衰えゆくことのたとえ。時がむなしく過ぎ去るたとえ。別離のたとえ。」とある。直感通りといえば、直感通りだ。

しかしこの辞書には続きがある。「また、男女の気持ちが互に通じ合い、相思相愛の状態にあること。散る花は流水に乗って流れ去りたいと思い、流れ去る水は落花を乗せて流れていたいと思う心情を、それぞれ男と女に移し変えて生まれた語。」ということも意味する。つまり、①時の経過によって落ちた花が水の流れにしたがって流れる状態から、ゆく春の景色を示し、②転じて、物事が衰えゆくたとえ。時がむなしく過ぎ去るたとえ。別離のたとえを示す。③更に、気持ちが互に通じ合い、相思相愛の状態にある。というように三つの意味を含んでいる。②と③のように、別離と相思相愛という正反対の意味を含んでいる点が興味深く感じられる。日本語がハイコンテクストカルチャーの強い影響にある言語であり、文脈や場面によってその意味が決定されることを表す一例と言えよう。

ところで、「別離と相思相愛」といえばこの和歌を思い出す。「瀬をはやみ 岩にせかるる 滝川の われても末に あはむとぞ思ふ」（作者：崇徳院、現代語訳：川の浅いところの流れが速いので、岩にせき止められた急流が二つに分かれてもまた一つになるように、あなたと今は離れていても、いつかきっと再び逢おうと思います。）これは百人一首の一つであり、落語の演目としても知られているのでご存じの方も多いただろう。時間的経過と川のうつろいに、前述した②と③の意味がこめられていると感じている。また、ある高校の先生が全国の競技カルタを愛好する高校生を対象に「百人一首で一番好きな和歌はなにか？」というアンケートをとったところ、「瀬をはやみ～」の歌が1位だったとのことである。時間と川の流れを掛けた中に、愛する人との別離と再会の願いが込められているところが好まれたのだとすると、悠久の時を経て尚、Z世代の心にも届いているということに深い感慨を覚えずにはいられない。